

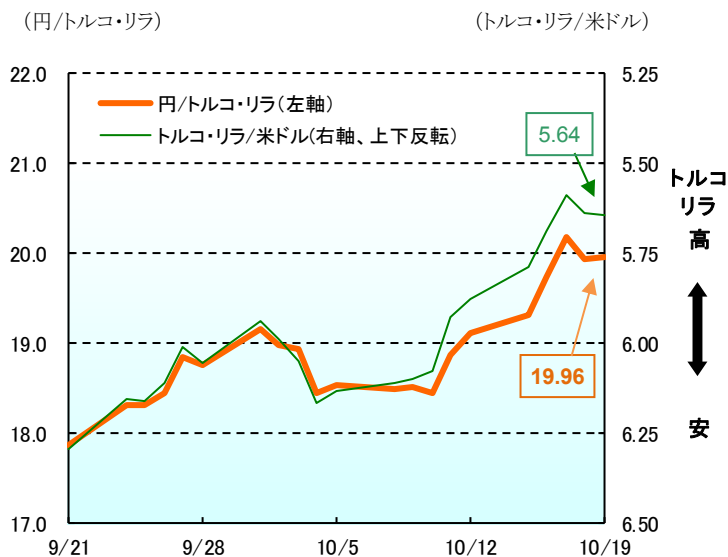
【2018年10月13日～2018年10月19日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに上昇しました。トルコの2年国債金利は低下しました。

前週の米国人牧師の解放が好感された流れを引き継ぎ、トルコ・リラは対米ドル・対円ともに上昇しました。また、アルバイラク財務相は15日（現地、以下同様）の会見で、インフレ率は10月から低下トレンドに入り、年末まで継続するとの見通しを明らかにしました。国債金利はインフレ率鈍化への期待から低下しました。経済指標では、16日に発表された8月の鉱工業生産が市場予想を上回る結果となりました。

【トルコ・リラ 為替推移】（2018年9月21日～2018年10月19日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週は25日の金融政策決定会合に注目が集まっています。現在の政策金利は24.00%です。9月のCPI（消費者物価指数）は前年比24.52%とインフレが加速しているほか、先週トルコ中央銀行から発表されたインフレ期待調査でもさらなるインフレ加速が予想されていたことから、追加利上げが必要であるとの見方があります。しかし、足元のトルコ・リラの買い戻しの流れや、政府のインフレ鈍化の見通しおよび政府と中央銀行との力関係を考慮して、政策金利は据え置かれるとの予想が優勢です。中長期的にはインフレが沈静化しない可能性や中央銀行の独立性が懸念されるものの、米国との関係や市場のセンチメントの改善を考慮すれば、今回の決定会合で政策金利が据え置かれたとしても、8月のようにトルコ・リラが急落する可能性は低いと考えます。

【トルコ 金利推移】（2018年9月21日～2018年10月19日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>